

平成 22 年 4 月 23 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19530869
 研究課題名（和文） イーラーニングシステムを利用した発達障害児を持つ親支援プログラムの効果
 研究課題名（英文） The Effects of Parent Training of Children with Developmental Disabilities Using E-learning System
 研究代表者
 鳥取大学・大学院医学系研究科・教授
 井上 雅彦（INOUE MASAHIKO）
 研究者番号：20252819

研究成果の概要（和文）：広汎性発達障害児を持つ親に対して、インターネットによるペアレントトレーニングプログラムを開発・実施し、その効果を親の精神健康、子どもの行動、親の行動変容に関する知識の側面から検討した。結果、プログラムに対する対象者の高い満足度を得ることができ、親に関して SRS-18、PS-SF、親の行動変容法に対する知識の改善が見られた。子どもの変容に関しては介入群の SDQ の下位尺度について仲間関係において有意な上昇傾向が認められた ($z = -1.725, p < .10$)。

研究成果の概要（英文）：This study is evaluated the effects of parent training (PT) of children with developmental disabilities, using e-learning system. After the intervention, the scores of SRS-18, PS-SF and KBPAC were improved but not meaningful statistically. The behavioral modification of the children were meaningful statistically.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：(1) 発達障害児 (2) 家族支援 (3) ペアレント・トレーニング (4) イーラーニング

1. 研究開始当初の背景

発達障害者支援法の施行に伴い、発達障害者の早期発見から就労・生活までの具体的なかつ効果的支援方法の確立の必要性が叫ばれ

ている。ペアレント・トレーニングは 1960 年代に米国において発達障害の療育の補助的手段として開始されたものである。ペアレント・トレーニングは我が国でも最近になっ

てAD/HD児を対象にしたプログラムが紹介され(ウイットム、2002; 2003)、親の会や病院、大学など様々な場所で様々な形態で実施され始めている。しかしながら、現在我が国におけるこれらのプログラムの実施形態では、専門家の不在や自治体の予算不足などにより、全体の福祉制度として寄与することは限界がある。

2. 研究の目的

本研究ではインターネットe-learningを利用したペアレントトレーニングプログラムを各コースウェアを整備し、実際に運用することでその効果を検証することを目的とする。

3. 研究の方法

1) 対象者および対象児

対象者は、広汎性発達障害児またはその疑い児をもつ母親24名であった。また対象者の広汎性発達障害またはその疑いのある子どもを対象児とした。対象者は、介入群12名と介入遅延群12名の2群に分けられた。各群は、対象者の年齢($t(21)=-1.33, n.s.$)、対象児の年齢($t(22)=.28, n.s.$)および社会生活能力指数SQ($t(19)=.01, n.s.$)がほぼ等質になるようにマッチングを行なった。

2) 期間

実施期間は、X年10月から12月までの約2ヶ月間であった。

3) ウェブサイト

ペアレントトレーニングプログラムのシステム「子育て支援講座」をウェブサイトに構築した。

4) 受講の状況

ウェブサイトの利用について調べるためにGoogle社製Google Analyticsを使用して、対象者のウェブサイトへのアクセス状況を解析した。実施期間中のアクセス回数およびアクセス時間の平均を曜日別、時間帯別に分析した。また、介入群の対象者の課題提出状況をもとに、プログラム開始から終了までの期間について分析した。

5) 親の変容

介入群、介入遅延群ともに、心理的ストレス反応測定尺度(以下、SRS-18: Stress Response Scale-18; 鈴木, 2004)、育児ストレスショートフォーム(以下、PS-SF:

Parenting Stress Short Form; 荒木, 2006)、Knowledge of Behavioral Principle as Applied to Children (O' Dell et al. 1979)がプログラムの前後で測定された。

4. 研究成果

対象者24名のうち、介入群10名、介入遅延群12名の計22名(95.7%)を分析対象とした。平均アクセス回数は12.6回、平均ページ閲覧数10.5ページ、平均滞在時間数は3時間27分であり、対象者によって大きなばらつきがあった。

プログラムに対しては対象者の高い満足度を得ることができ、親に関してSRS-18、PS-SF、親の行動変容法に対する知識に対して改善が見られたが、統計的な有意な差は得られなかった。子どもの変容に関しては介入群のSDQの下位尺度について仲間関係において有意な上昇傾向が認められた($z=-1.725, p<.10$)。本研究では対象者の高いプログラム受講率を示したが、提供方法や構成などのプログラムの受講しやすさだけでなく、対象者の動機付けなどサンプリングの偏りの影響があったと考えられる。

また本研究のネットによる講義部分を従来のペアレントトレーニングに組み込むことでプログラムの拡大に寄与できると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)

- ① 井上雅彦、自閉症に対するエビデンスに基づく実践を我が国に定着させるための戦略、行動分析学研究、査読有、23(2)巻、2009、173-183
- ② 井上雅彦、自閉症における応用行動分析学からのアプローチとそのエビデンス、精神療法・心理社会療法ガイドライン 精神科治療学、査読無、24増刊号、2009、306-307
- ③ 井上雅彦、発達障害のある子どもが集団のルールで動けるために、児童心理、査読無 63(8)巻、2009、100-105
- ④ 井上雅彦、広汎性発達障害のある子どもの感情理解と表現への支援、児童心理、査読無、63(7)巻、2009、663-667
- ⑤ 井上暁子・井上雅彦、強いこだわりを持つ自閉症生徒に対するセルフマネジメント手続きを利用したカウンセリング、明和学園短期大学紀要、査読無、18巻、2009、69-76
- ⑥ 古谷奈央、井上雅彦、岡村寿代、特別支援教育におけるe-learning研修に関する教師の意識調査-問題行動への対応を中

- 心として(兵庫教育大学発達心理臨床研究センター、発達心理臨床研究、査読無、15巻、2009、65-74
- ⑦ 平本厚美, 上床亜利沙, 大久保賢一, 井上雅彦、重度精神運動発達遅滞児に対する逆行行動連鎖法を用いた音声模倣の形成(兵庫教育大学発達心理臨床研究センター)、発達心理臨床研究、査読無、15巻、2009、185-190
 - ⑧ 宮崎光明、井上雅彦、自閉症生徒における歩行者用信号機のある横断歩道の横断指導・現実場面に近い環境下において歩行者用信号機に注意を促す指導方法の検討(兵庫教育大学発達心理臨床研究センター)、発達心理臨床研究、査読無、15巻、2009、191-200
 - ⑨ 吉田裕彦、井上雅彦、自閉症児におけるボードゲームを利用した社会的スキル訓練の効果、行動療法研究、査読有、34巻、2008、211-323
 - ⑩ 大久保賢一、井上雅彦、渡辺郁博、自閉症児・者の性教育に対する保護者のニーズに関する調査研究、特殊教育学研究、査読有、46巻、2008、29-38
 - ⑪ 大久保賢一、井上雅彦、自閉症児・者の性的問題行動に関する保護者の意識—親の会への質問紙調査から—、発達障害研究、査読有、30巻、2008、288-297
 - ⑫ 安達潤、行廣隆次、井上雅彦、他、広汎性発達障害日本自閉症協会評定尺度(PARS)短縮版の信頼性・妥当性についての検討、精神医学、査読有、50巻、2008、431-436
 - ⑬ 井上雅彦、竹中 薫、福永 颯、発達障害児支援におけるインターネットを利用した連携システム—保護者が管理者となるコミュニティ掲示板の利用、鳥取臨床心理研究、査読無、1巻、2008、3-7
 - ⑭ 井上雅彦、自閉症療育における応用行動分析学の研究動向と支援システム、小児科臨床、査読無、61巻、2008、2446-2451
 - ⑮ 井上雅彦、特別支援教育の課題—教育相談と支援研究の立場から、ノーマライゼーション、査読無、28巻、2008、14-17
 - ⑯ 高階美和、内田敦子、犬飼陽子、井上雅彦、保健センターの親子教室参加者を対象とした発達が気になる子どものペアレ

ント・トレーニング、発達心理臨床研究(兵庫教育大学発達心理臨床研究センター)、査読無、14巻、2008、17-25

[学会発表] (計 19 件)

- ① 井上雅彦、発達障害児の二次的な障害・併存障害の臨床行動療法士会企画シンポジウム、第 35 回日本行動療法学会、2009 年 10 月 13 日、幕張メッセ 国際会議場
- ② 石原広保、問題行動に対する「チェック式機能分析シート」の小学校授業場面での効果の測定、第 35 回日本行動療法学会、2009 年 10 月 12 日、幕張メッセ 国際会議場
- ③ 古谷奈央、通常学級の担任に対する問題行動への対応に関する e-learning 研修の効果、第 35 回日本行動療法学会、2009 年 10 月 11 日、幕張メッセ 国際会議場
- ④ 野村和代、強度行動障害特別処遇事業における事例報告の分析、日本特殊教育学会第 47 回大会、2009 年 9 月 21 日、宇都宮
- ⑤ 秦基子、行動問題に対する教育現場での効果的技法に関する文献研究Ⅱ、日本特殊教育学会第 47 回大会、2009 年 9 月 21 日、宇都宮
- ⑥ 井上雅彦、行動問題に対する教育現場での効果的技法に関する文献研究Ⅰ、日本特殊教育学会第 47 回大会 2009 年 9 月 20 日、宇都宮
- ⑦ 酒井美江、自閉症児における将棋のルール獲得、日本特殊教育学会第 47 回大会、2009 年 9 月 20 日、宇都宮
- ⑧ 大羽沢子、自閉症児の人物画指導における人物画表情表現の獲得(2)、日本特殊教育学会第 47 回大会、2009 年 9 月 20 日、宇都宮
- ⑨ 小泉和子、ADHD 児における教室場面での問題行動の低減、日本特殊教育学会第 47 回大会、2009 年 9 月 19 日、宇都宮
- ⑩ 宮崎光明、特別支援学校における教員研修プログラムの開発と有効性の検討(2)、日本特殊教育学会第 47 回大会、2009 年 9 月 19 日、宇都宮
- ⑪ 石坂務、特別支援学校における教員研修プログラムの開発と有効性の検討(1)、日本特殊教育学会第 47 回大会、2009 年 9 月 19 日、宇都宮
- ⑫ 梅永雄二、自閉症の人への様々な支援アプローチ、準備委員会企画シンポジウム、日本特殊教育学会第 47 回大会、2009 年 9 月 19 日、宇都宮
- ⑬ MASAHIKO INOUE、The effects of the teacher training program for special education. Association for Behavior Analysis International 5th International

- Conference 2009年8月9日、オスロ
- ⑭ 井上雅彦、発達障害のある不登校児童生徒への支援—支援事例を中心に—教育セッション、日本行動分析学会第27回年次大会、2009年7月12日、筑波大学
- ⑮ 望月昭、Behavioral Human Serviceology at Twenty What is a Heart of Behavior Analysis? 日本行動分析学会第27回年次大会、2009年7月10日、筑波大学
- ⑯ AIKATatumi,KAZUYO
Nomura,MASAHIKO Inoue,MASATUGU Tsuji Parent Training for Parents of a Child with Asperger's Syndrome and High functioning Autism.P1-19. 8th Pacific Regional Congress of International for Group Psychotherapy and Group Processes. 2008年10月9日、松江
- ⑰ MASAHIKO Inoue, Teacher Training and Consultation Program using Internet for Children with Developmental Disabilities. Association for Behavior Analysis 34th Annual Convention 2008年5月24日、シカゴ USA
- ⑱ 犬飼陽子、井上雅彦、早期発達支援機関における発達の気になる子どもへのペアレント・トレーニング—保健所および児童通園施設のスタッフをファシリテータとしたプログラム効果の検討—、日本特殊教育学会第46回大会、2007年9月、神戸
- ⑲ MASAHIKO Inoue, Parent Training Program using Internet for Children with Autism Association for Behavior Analysis 33th Annual Convention 2007年5月、サンディエゴUSA

[図書] (計6件)

- ①服部環、北樹出版、使える教育心理学、2009、172-189
- ②富永光昭、ミネルヴァ書房、特別支援教育の現状・課題・未来、2009、269-277
- ③安達潤、金子書房、発達障害の臨床的理解と支援 3学齢期の理解と支援、2009、149-165
- ④東條吉邦、東京大学出版会、発達障害の臨床心理学、2009、35-57
- ⑤井上雅彦、学研、家庭で無理なく楽しくできる生活・学習課題 46—自閉症の子どものためのABA基本プログラム、2008、197
- ⑥柘植雅義、井上雅彦、金子書房、発達障

害の子を育てる家族への支援、2007、

[その他]

ホームページ等

<http://www.masahiko-inoue.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井上 雅彦 (INOUE MASAHIKO)
鳥取大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号：20252819

(2) 研究分担者

佐々木 和義 (SASAKI KAZUYOSI)
早稲田大学・人間科学学術院・教授
研究者番号：70285352
(H19→H20:連携研究者)